



私の大原 ベストポジション

大原草紙



第70号
令和2年1月
新春号

来迎院町 中村正明



戦場となった大原

ひよんな事と言うにはいささか語弊があり、内容も悲しい話です。75年が過ぎようとしている事でもあり、拘わられた方も殆どが他界され、もうあの事件というか事故を知る人が極く少数となってきましたので、敢えてもう一度振り返ってみたいと思います。

時は昭和19年12月、日米戦争も日本の敗色が濃厚となってきた頃、名古屋市爆撃の事前偵察に来襲してきたB29爆撃機の小編隊に大阪湾から京都市上空、琵琶湖上空と幾度となく攻撃を加えるも、最後には片翼端が機銃と共に欠落し、途中峠頂上西側の山中に真つ逆さまに墜落した日本陸軍の戦闘機がありました。すぐさま大阪柏原の基地から搜索機が飛来、大原をなめるように飛び廻って探しましたが墜落地点が判りません。そこで大原国民学校の児童生徒300余名が校庭に北4キロと人文字を描きました。搜索機はそれを見て真つすぐに途中峠へ向いました。その後も地元小出石の方々は搜索に協力し一番大きい遺体でも、手のひら位だったと言う遺体を集め、正円寺で通夜を行ったということです。搭乗員の名は森藤正美陸軍少尉、愛知県出身の21歳。彼は江文神社の戦没慰霊碑に合祀されています。

謹賀新年

京都大原里づくり協会



顧問	土井 孝雄
顧問	和田野光彦
理事長	榎並 博一
副理事長	上田 壽一
常務理事	高倉 哲法
理事	久保 満
理事	多紀 穎忍
理事	藤井 宏全
理事	西田 誠
理事	安田 真
監事	久保 勝
監事	小林 義夫
サポーター	竹腰 幸司
サポーター	高田潤一朗
サポーター	安倍百合子

謹んで新年のお慶びを 申し上げます

NPO法人
京都大原里づくり協会
理事長 榎並博一



いつも当協会の各種活動にご理解と御協力を頂き有難く御礼申し上げます。新年に際し、当里づくり協会の活動の概要を申し述べ、会員はもとより、広く皆さま方の活動参加を期待しお願ひ申し上げます。

温故知新の取組み

平成29年9月、井出町から始めた「大原地域史跡調査」は昨年8月の百井町で一先ず一巡しました。「目からウロコ」といった驚くべき初耳はありませんでしたが、忘れかけていた勝手神社の神輿の存在や、戸寺町の左義長でと伝統行事その他再整理して取扱を検討します。また、明治以来の写真集「大原の里を完成、発行しました。また、大原地域に対する思い等を京都大原学院の生徒たちに習い「大人の原提言」と「里づくり会」で新旧住民の共通の話題作りを進め、ともすれば閉鎖的と言われてきた大原の里が伝統から学び新しい里づくりを推し進めたいと思います。皆さまの活動参加を心からお待ちしております。

輝かしい新年が自然災害をみんな回避し、より良い大原地域となるよう願っております。

復活第4回惟喬親王 鑽仰御遠忌法要

明治14年、惟喬親王のゆかりの人達を中心に親王千年忌法要が努められた事にちなみ、「第四回復活法要」が10月10日天台宗の一大行事「法華大会で巳講」を務められた堀澤三千院門主のご導師のもと魚山一山のご出仕を得て、勝林院堂で執り行われました。法要の後の講演会には「洛北小野郷に伝わる惟喬親王伝説」を小野郷大森中町御出身の田尻睦さんにお願ひ致しました。田尻さんは生まれ故郷の小野郷に伝わる親王伝説を丹念に調査し、このほど自費出版された著書を参加者に贈呈いただきました。熱のこもった講演を頂きました。快晴の秋の日、50余名のご出席を戴きました。



勝手祭開催のご報告



安田真

台風19号の影響で開催があやぶまれた勝手祭ですが、おかげさまを持ちまして、予定していた一連の行事を無事に執り行うことができました。

10月18日の前夜祭は、一般市民グループによる声明奉納に続き、観世流の林宗一郎氏による能楽奉納、19日は午前の勝手神社での巫女舞に始まり、勝林院での魚山僧侶による法要、午後からは民俗学研究家の山路興造氏による講演、その後の声明奉納に続き雅楽・舞楽奉納と、盛り沢山の内容でしたが、地元の皆様のご協力や運営に携わったNPOメンバー達の尽力もあり、滞りなく進行でき、訪れて頂いた皆様にも大いにお楽しみ頂くことができました。

平安時代に奈良吉野から勧請されたと伝わる勝手神社。大原魚山各寺院の守護神として、声明をはじめとする各種芸能の神様として、また地元の来迎院町の氏神として今日に至るまで崇敬されてきました。この由緒あるお社において明治のはじめまで盛大に行われてきたという勝手祭の本格復興を目指し、来年以降も引き続き活動に取り組んで参りたいと考えておりますので、みなさまのご支援ご協力どうぞよろしくお願ひいたします。



横山良平（よこやまりょうへい）さん
2014年から井出町在住。
奥さんのちひろさんと三人娘と五人家族。

No.5
大原に移住してきた農家ですけど。

久しぶりに農家仲間をインタビュー。毎日のように顔を会わしていても、心情に直接触れるディープな対話をする機会はほとんどないから貴重な時間でした（音吹畑高田）



#004 井出町 横山良平 流れていたら大原に移住。

野菜づくりは奥が深い。有機農業と言えども、その方法は千差万別だ。次第に自分なりの農法を試してみたくなる。移住したことで大原の周囲がよりよく見えるようになる。その気持ちはいよいよ高まり、ついに独立に至った。

もともと八百屋をしようと考えており、友人に連れられて大原の朝市を訪問した。そこで、草生町の古民家有機野菜レストランわっぱ堂の店主と縁ができる。「生産の現場を体験したことは八百屋としてきつとプラスになる」と熱烈な誘いを受け一念発起。修学院に住んでいた頃からわっぱ堂に通い、その農業部門で働くことになった。折しも修学院の借家を出ることになり物件を探していたところ、農家仲間から井出町の家を紹介され、晴れて移住することになる（その後二〇一九年に現在の家に引っ越し）。



農家としての横山さんはとても丁寧で細かな仕事をする人だという印象だ。ショウガは振り上げた後、葉を切り落とし、可食部分の根に付いてきた土を水で洗い落とす。彼はこれでもかというほどに洗ひ上げ、何とも言えない美しさで出品する。野菜への思いが現れる荷姿である。

二〇一九年は、夏の川あそびフェスタ（魚つかみ大会）を主催していた「おやじの会」の代表を引き継ぐこととなる。諸事情から取り止めたくなった川フェスタに代わる別のイベントを立ち上げるべく、これまで「おやじの会」を牽引してきた先輩達と



サマフェスタ。学院生たちが主体的に企画してくれた様々なゲームをはじめ先生や学生のおやじの飲食ブースが並んだ。

大原に、最初から強い憧れをもっていただけではない。流れに身を任せ移住したくてもできない人が多数いる中、ひきの強さは人一倍だ。運の良さもあつたのかも知れない。しかし手繰り寄せているのは彼や妻やひろさんの、誰に対しても分け隔てなく、温かさをもって接する人柄が故、先入観なくどこにでも顔を出す行いが故であろう。独立して自由な時間の増えた彼は、農業に関わる役はもとより、町内行事、祭り、ゴミ、消防団と地域活動に積極的に顔を出し、深く関わり始める。

今では八朔の神事で謡いを披露し、ゴミでは副会長の役に就くほどだ。生まれも育ちも鎌倉で、京都・大原はアウェイな土地。はじめから良く知る土地だどこまで深くリーチできなかつた、と言う。自らを売り込む必要性とそれを厭わない好奇心の強さが、好循環を生み出すのだろう。

定めた目標に向かっていくよりも、目今の農業、地域活動、暮らしのひとつひとつと向き合いながら、丁寧になつていく。後を振り返ると道ができていく、そんなタイプだ。もともと物欲はあまりなく、人との付き合いから生まれる無形の価値に重きを置く。彼らにとって、これから先、どのように暮らして展開していくかは未知数だ。地域に入り込むのを打ち算や計画性を持たずにいられる彼やちひろさんは、これからは周囲を巻き込みながら魅力的で柔軟性に富んだ移住生活を、意図せずして送り続けることだろう。

ちひろさんと三人娘。自然派用品を扱うANZENA（アンジーナ）は実家の家業で、ちひろさんは子育てしながら現役で働いている。



ベニシアさんの丁寧な暮らしとアンジーナのブランドコンセプトはよくマッチしている。だが三人娘がベニシア番組にたびたび登場するのは、ただただ仲が良いからなのではなからうか。

ともに「サマフェスタイベント」を立案・企画。代表として、大原学院との打ち合わせを何度も粘り強く重ね、無事にイベントを成功させた。



れんさいマンガ
* 69 *
アズマツネオ



第三回里づくり会 開催のお知らせ

「大原の古文書」「勝林院研究会」からガラツと内容を一新して、2ヶ月に一回開催の「里づくり会」を開催します。

■日時…1月26日(日) 17時

■場所…大原公民館

■リーダー…上野町

高田潤一朗さん

ゲストスピーカーカーを囲んで、各自持参で飲み物やツマミを囲み「大原の里」についての話題イロイロを、新旧住民らで語り合っただけの輪を広げたいと思います。子供連れでフラツと、お気楽に。

■第4回は隔月3月に開催します、日程は別途お知らせします。

第二回 京都大原里づくり協会賞 砂山綾子さんに



私たちの身近な所で「大原の里づくり」に活躍されている方々の活動に感謝し、ご紹介する「京都大原里づくり協会賞」令和元年の受賞は野村町砂山綾子さん。その活動を聞きビックリ。一端をご紹介します。

大原女衣装の着付け 年中着付けはあるが中でも、5月の「大原女祭」

の70名と10月の「時代祭」の御所で20人。神奈川県某私立有名高校の修学旅行、恒例のお楽しみコースになっていて毎年40名に。21世紀、大都会の高校生が大原女衣装を楽しみにしていると聞くと嬉しい気持ちになる。観光で来た人たちの大原女衣装の感想「楽しかった」「着やすい、ラクヤ」姿見の自分を見て思わず「かわいい」の第一声も出るそうです。

しめ縄作りは5月から。大原社会福祉協議会が毎年主催するしめ縄作り教室も担当「参加者に玄関用を作って帰って欲しい」と11月になるとパーツの準備開始。材料の稲わらの確保には苦労しようと聞くと「自分でもち米を手植え、稲刈りは8月に青田刈、もち米より稲わら欲しいのです」野村町のしめ縄作りの名人から教えてもらった技を伝え、作るのが楽しくて、生きがいですと笑顔で話されました。大原の良き伝統を忙しい中、楽しみながら励んでおられます。

表紙の横顔

中村正明さんプロフィール
同級生だった故前田満寿夫さんは生前中村さんを評して「級長は今も級長」。大運動会での活躍でレジエンド。マイクロボスで行く先々も詳しく、同行者から「人間カーナビ」(文責:N)

写真集 大原の里

発行と余話



西田誠
発行に至るまで沢山の方のご協力を頂きました。有難うございました。

9月中旬、アルバムが完成し到着。京都新聞社記者から取材。「次ぎ新聞に載るとき逆走運転ぐらい、エエ顔に写してね」とお願いしました。写真の顔はそれなりに写っていました(笑)。朝から反響が方々から、昔の仕事の先輩、仲間からは電話。若い人からはメールが到着。なかでも私より5、6歳年上の女性から「祖母に連れられて草生の奥まで祖母の妹の家に行ったのが懐かしい」と電話。次々出てくるその家人達の名前がさらに懐かしさを駆り立てるようです。同様の電話と手紙で10月上旬はあつと言う間に過ぎ去り。改めて新聞の持つ影響の大きさを知ったことでした。「写真集大原の里」はまだあります。委託販売が終了しても当方で販売いたします。大原出身のお知り合いの方々に知らせてあげてください。

最大の問題はこの号で貼付した正誤表と挟み込みの校正ミスは心のどこかに早く冊子を手に取りたいとする焦りからくるものだったと反省しきりです。アルバム発行に際しお祝いを戴きました。京都大原学院生の海外留学基金等にさせていただきます。

◆金一封 宇野慶子様 志甫博様

北区 匿名名様